

防衛大臣 森本敏様
近畿中部防衛局長 田淵眞二様

オスプレイ岩国搬入、普天間配備中止を求める要望書

垂直離着陸輸送機MV22オスプレイを積んだ輸送船「グリーン・リッジ」が7月1日カリフォルニアを出港し、すでにハワイを經由し、今月24日に岩国に到着するといわれています。

あなたたち日本政府、防衛省は外務省とともにアメリカ政府の事故つづきのオスプレイの岩国への搬入・沖縄・普天間への配備に対して抗議することもなく、連続して起こる事故の原因糾明さえ強く求めず、配備ありきの対応に終始しています。私たちは、森本防衛大臣をはじめとする日本政府高官のこうした対応に強く抗議します。

オスプレイは、その開発時点から今日まで、死亡事故を含む多数の事故を起こしています。今年に入ってもアフリカ・モロッコ、アメリカ・フロリダで、そしてつい先日・7月9日にもノースカロライナで訓練中に異常が発生しウィルミントン国際空港（民間）に緊急着陸しました。しかし、アメリカ政府・軍部は事故隠しをする一方で、事故原因が「機体の問題ではなく人為的問題」だと発表するよう関係機関に圧力をかけています。機体の問題でなければ搬入・配備しても何の問題もないといっているのです。原因がどうあれ、事故を多発しきわめて危険であることは事実です。森本大臣はアメリカ政府の事故隠しに抗議し徹底した原因究明・公表を求めるべきです。

アメリカ政府の計画では、岩国に陸揚げしたオスプレイを、8月には沖縄・普天間基地へ配備し、10月から運用することになっています。さらに配備後に、キャンプ富士（静岡県御殿場市）と岩国基地に毎月数機を派遣する訓練や、東北の山間部を飛行するグリーンとピンク、北アルプスや越後山脈の周辺を飛行するブルー、四国山地周辺から紀伊半島を飛行するオレンジ、九州山地周辺を飛行するイエロー、奄美諸島に沿って飛行するパープルの6つの飛行訓練ルートが明らかになっていますが、つい先ほど、中国地方山間部のブラウンルートがあることが明らかになりました。このブラウンルートは、先の6ルートとは違い環境影響評価もないまま実施されようとしており、より以上に問題です。

これまでも、世界一危険な基地といわれ住宅地に包囲された普天間基地に、墜落事故が相次ぐオスプレイを配備することに対して、沖縄では行政・議会も含めて全県的な激しい怒りが巻き起こっています。6月17日には5200人が、「オスプレイ配備の中止、普天間飛行場の固定化反対、早期閉鎖・返還、閉鎖・返還時期の明確化」を求めて集会を行い、普天間基地前では座り込み闘争も始まり、8月5日には全県民規模の集会が計画されています。岩国でも集会が持たれ、オスプレイ搬入時には大きな反対行動が計画されています。

米軍基地をかかえる沖縄だけでなく訓練飛行ルートの九州、中国、四国、近畿、東北地方でもオスプレイ反対の声が巻き起こり広がっています。これらの要求は、それぞれの地域の住民だけでなくこれまで腰が重かった地方行政、議会をも巻きこんだものになっています。沖縄、神奈川など米軍基地をかかえる県の行政も共同して政府への申し入れをしました。

バラク・オバマアメリカ合衆国大統領様

パトリック・ジョセフ・リネハン大阪・神戸アメリカ総領事様

オスプレイの岩国搬入・普天間配備中止の申し入れ

アメリカ合衆国政府がMV 22 オスプレイを普天間基地に配備するため、7月1日輸送船「グリーン・リッジ」をカリフォルニアから岩国に向け、出港させたことに強く抗議し、直ちに引き返すよう指令することを求めます。

オスプレイは開発当初から事故を繰り返し死者を含む大きな犠牲を出してきました。ところが貴政府は、事故隠しをする一方で、事故原因が「機体の問題ではなく人為的問題」だと発表するよう関係機関に圧力をかけてきました。事故原因が機体の問題でなければ搬入・配備しても何の問題もないといっています。ところが、今年に入ってからモロッコ、フロリダの事故に続きつい先日もノースカロライナで訓練中のオスプレイに故障が発生しウィルミントン国際空港に緊急着陸しました。原因がどうあれ、事故を多発しきわめて危険な武器であることは事実です。

今、オスプレイが配備されようとしている普天間基地は、住宅地に包囲され、貴政府も認めるとおり「世界一危険な基地」となっています。この基地に、連続して事故を起こしているオスプレイを配備することなどとうてい認めることはできません。それは、予想される普天間基地周辺住民の命の危険を見過ごすことにつながります。

今、沖縄の人々はオスプレイの普天間配備に激しく怒り「配備反対」の闘いに立ち上がっています。6月17日には5200人が、「MV 22 オスプレイ配備の中止、普天間飛行場の固定化反対、早期閉鎖・返還、普天間飛行場の閉鎖・返還の時期を明確化」を求めて集会を行い、7月9日からは普天間基地ゲート前で座り込みもはじめ、8月5日には全県民規模の集会が計画されています。沖縄では、オスプレイ配備反対の運動は県や市など全地方行政を含む全県的取り組みとなっています。

あなたたちは、2004年、普天間基地に隣接する沖縄国際大学に大型輸送ヘリコプターCH-53Dを墜落させる事故を起こしました。その上今回は危険極まりなく騒音も過酷なオスプレイを配備しようとしています。沖縄の人たちの怒りは当然です。

アメリカ政府の計画では、岩国に陸揚げしたオスプレイを、8月には沖縄・普天間基地へ配備し、10月から運用することになっています。さらに配備後に、キャンプ富士と岩国基地に毎月数機を派遣する訓練や、東北の山間部を飛行するグリーンとピンク、北アルプスや越後山脈の周辺を飛行するブルー、四国山地周辺から紀伊半島を飛行するオレンジ、九州山地周辺を飛行するイエロー、奄美諸島に沿って飛行するパープルの6つの飛行訓練ルートが明らかになっていましたが、つい先ほど中国地方山間部のブラウンルートがあることが明らかになりました。このブラウンルートは、先の6ルートとは違い環境影響評価もないまま実施されようとしており、より以上に問題です。

今日本では、これら7つの訓練ルートの下になる地域で、行政を含む多くの人たちがオスプレイ配備反対・飛行訓練ルート反対の声が上がっています。

このオスプレイは、在来機のCH46と比べて、速度、飛行高度、搬送重量・人員など性能が飛躍的に強化され、とりわけその航続距離が5倍以上3900Kmにもなり、中国

大陸や朝鮮半島もその行動範囲に含まれます。オスプレイの普天間配備は、あなたたちのアジア重視の新戦略の一環であり、中国、北朝鮮への敵視政策強化の現れだと考えます。これは、いたずらに東アジアの軍事的緊張を強めるものでありきわめて危険です。

私たちは、貴アメリカ合衆国政府に、オスプレイの岩国への搬入、普天間基地への配備を直ちにやめるよう要求します。また、配備に伴う7ルート¹の飛行訓練やめるよう求めます。東アジアの平和と安定のためにも、沖縄をはじめとする日本全体の米軍基地の撤去に取りかかることを求めます。

2012年7月17日

しないさせない戦争協力関西ネットワーク

私たちは、閉鎖・返還が約束されてから16年、約束が反故にされただけでなく最も危険なオスプレイの配備と基地の固定化が押しつけられようとしている普天間基地の地元宜野湾市民や沖縄県民の怒りを正当なものとして共有し、オスプレイ配備反対・普天間基地撤去の実現を要求します。岩国市民とともにオスプレイの搬入を中止するよう要求します。オスプレイ飛行訓練ルートの人々とともに飛行訓練ルートの撤回を求めます。

オスプレイは、在来機のCH46と比べて、速度、飛行高度、搬送重量・人員など性能が飛躍的に強化されています。とりわけその航続距離が5倍以上3900Kmにもなり、中国大陸や朝鮮半島もその行動範囲に含まれます。オスプレイの普天間配備は、アメリカのアジア重視の新戦略の一環であり、中国、北朝鮮への敵視政策強化の現れでもあります。これは、東アジアの軍事的緊張を強めるものでありきわめて危険です。

私たちは、このアメリカのアジア重視の新政策と期を一にして行われようとしている自衛隊の南西諸島への配備にも強く反対します。

私たちは、日本政府・防衛省の、アメリカ政府のオスプレイ普天間配備へのこれまでの暗黙の了解と陰での協力・推進に強く抗議し、直ちにやめるよう要求します。政府・防衛省がアメリカ政府にオスプレイの搬入・配備をやめ、直ちに輸送船グリーン・リッジを引き返すよう通告することを求めます。

2012年7月17日

しないさせない戦争協力関西ネットワーク